

## 消費者動向調査 No.112

# テーマ「夏のボーナス使いみち調査」

調査時期 平成 25 年 4 月

調査対象 福岡県内のサラリーマン家庭の主婦 500 人  
(うち回答者 475 人、回答率 95.0%)

回答者区分

A.年代

	%
20代	8.8
30代	26.1
40代	35.2
50代	21.1
60代	8.8

B.あなたのご家庭で

ボーナスがあるのは

	%
夫だけ	38.3
妻だけ	11.7
両方	50.0

当調査は情報提供を目的として作成されたものであり、その正確性・確実性を保証するものではありません。

西日本シティ銀行  
NCBリサーチ & コンサルティング

## [ 調査結果本文 ]

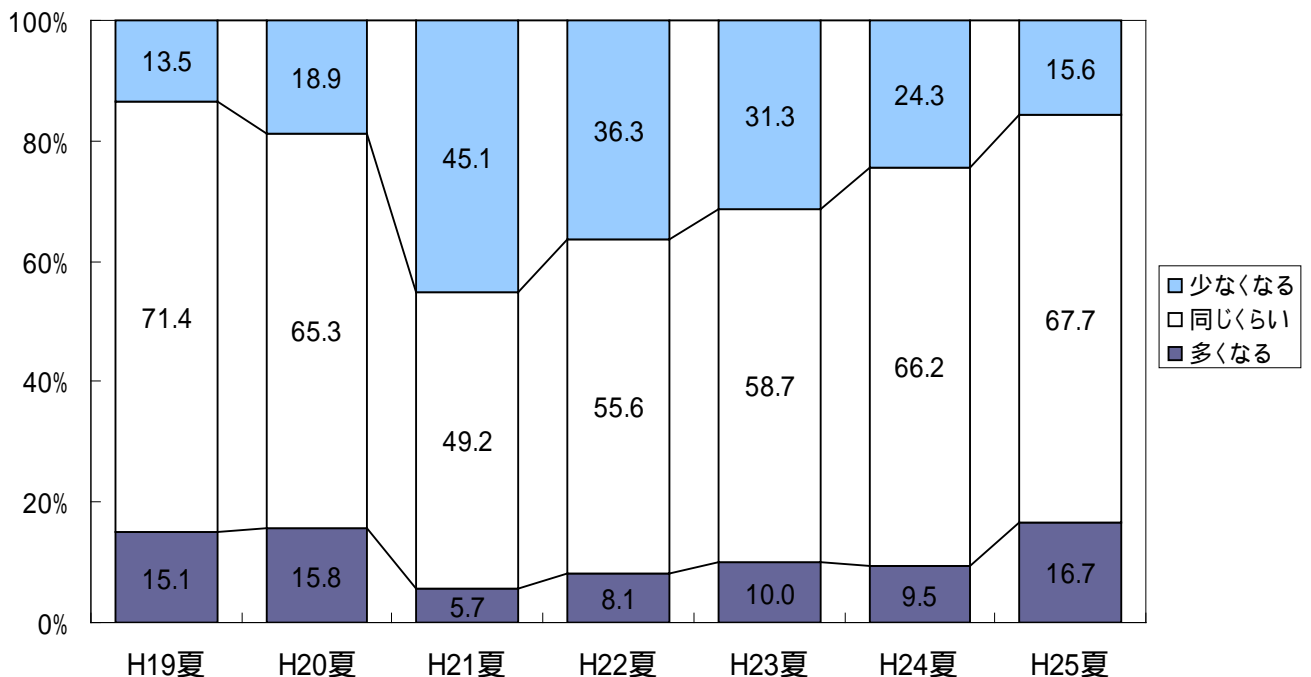
内閣府は5月の月例経済報告で、「景気は、緩やかに持ち直している。」と発表しています。先行きについては、輸出環境の改善や経済対策、金融政策の効果などを背景に、マインドの改善にも支えられ、次第に景気回復へ向かうことが期待されるとしています。ただし、海外景気の下振れが、引続きわが国の景気を下押しするリスクや、雇用・所得環境の先行き等にも注意が必要と指摘しています。

このような中、消費者はこの夏のボーナス受給額をどのように予想し、どのように消費しようと考えているのでしょうか。また、夏のボーナスの使いみちについて、これまでと違った傾向は表れつつあるのでしょうか。ボーナス受給を間近にひかえ、福岡県在住の主婦を対象に夏のボーナスについての消費動向をたずねました。

今年の夏のボーナス、前年夏と比較して「多くなる」は7.2ポイント増加。

夏のボーナスが前年夏より「多くなる」と予測する割合は7.2ポイント増加し16.7%、「少なくなる」は8.7ポイント減少し15.6%、前年夏と「同じくらい」は1.5ポイント増加し67.7%であった。

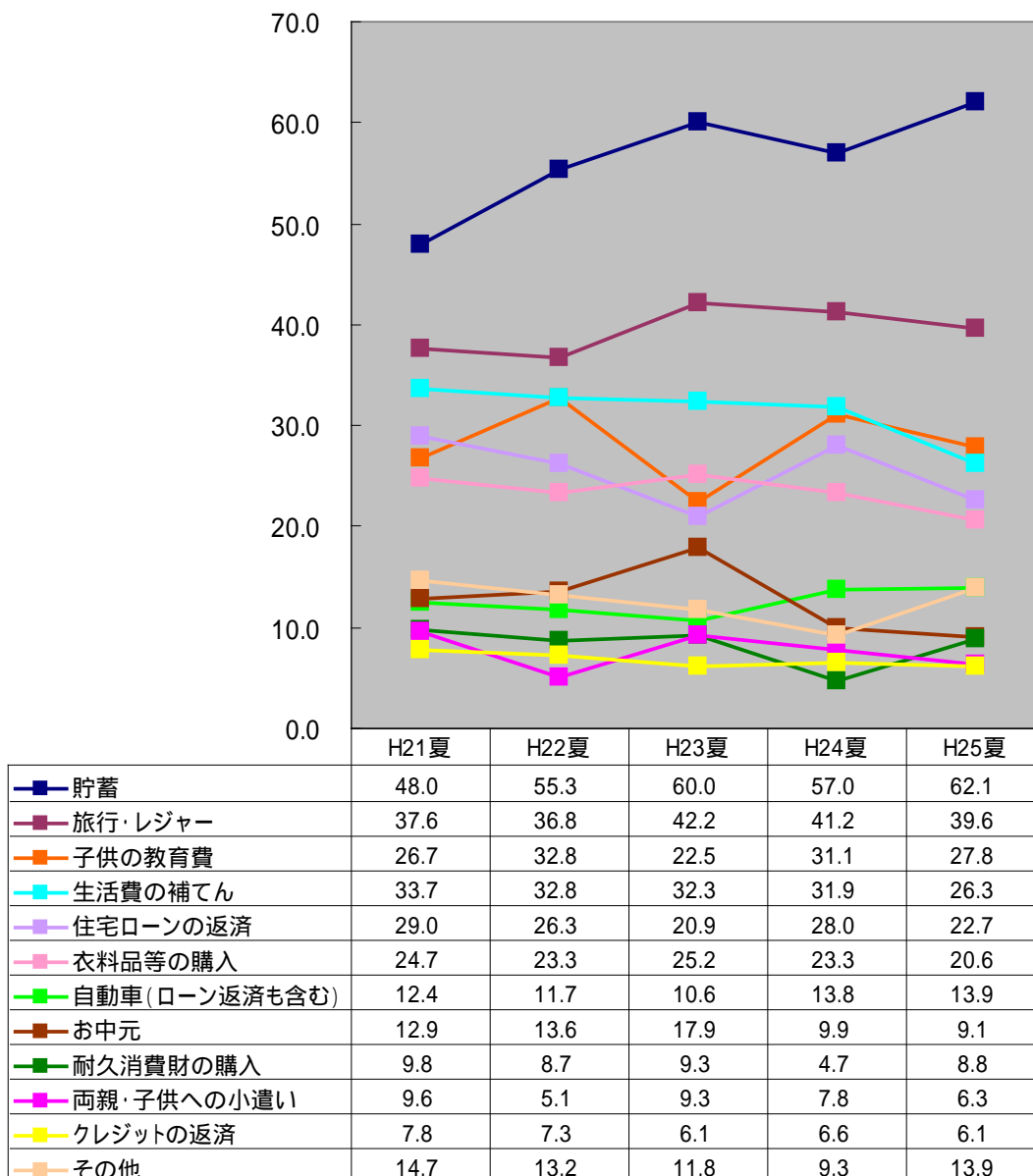
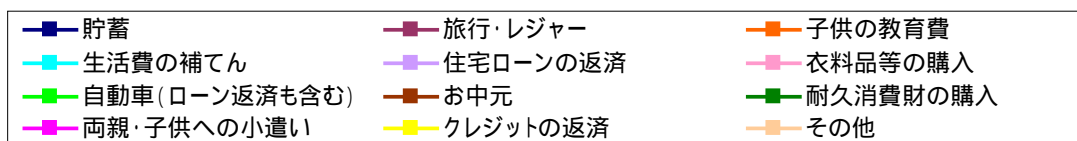
[ グラフ1 : 夏のボーナスは昨年に比べどうなると予想していますか ] (単位: %)



夏のボーナスの使いみち予定、1位は「貯蓄」で62.1%。2位は「旅行・レジャー」で39.6%。

夏のボ - ナスの使いみち予定1位は「貯蓄」で62.1%。これは前年夏の57.0%より5.1ポイント増加した。2位は「旅行・レジャー」で1.6ポイント減少して39.6%。3位は「子供の教育費」の27.8%となった。

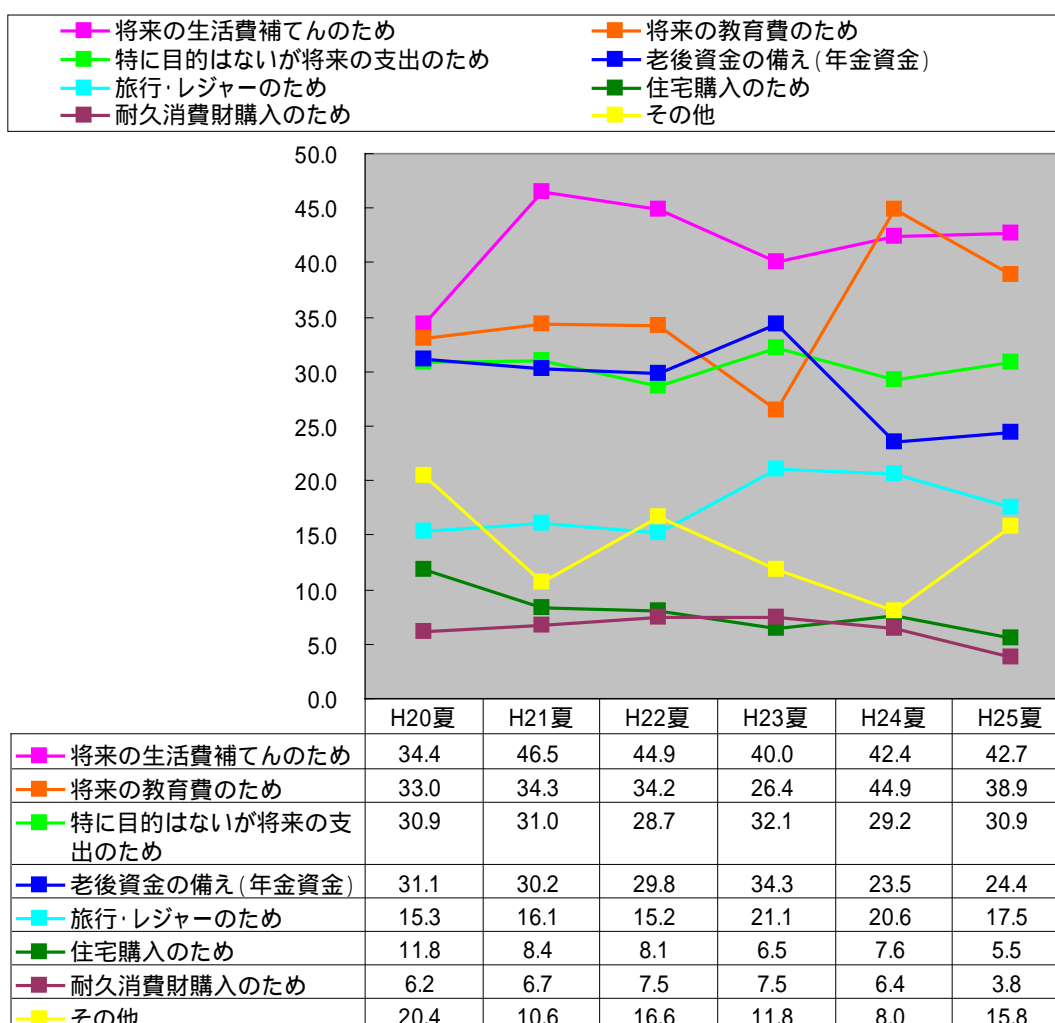
[グラフ2：夏のボーナスは何に使う予定ですか（3つまで）] （単位：%）



ボーナスを貯蓄する目的、1位は「将来の生活費補てんのため」で42.7%。2位は「将来の教育費のため」で38.9%。

夏のボーナスを貯蓄する目的の1位は、「将来の生活費補てんのため」が前年夏に比べ0.3ポイント増加し、42.7%でトップ。2位は「将来の教育費のため」で6.0ポイント減少し38.9%と、引続き将来への備えが上位を占める中、「その他」との回答も7.8ポイント増加した。

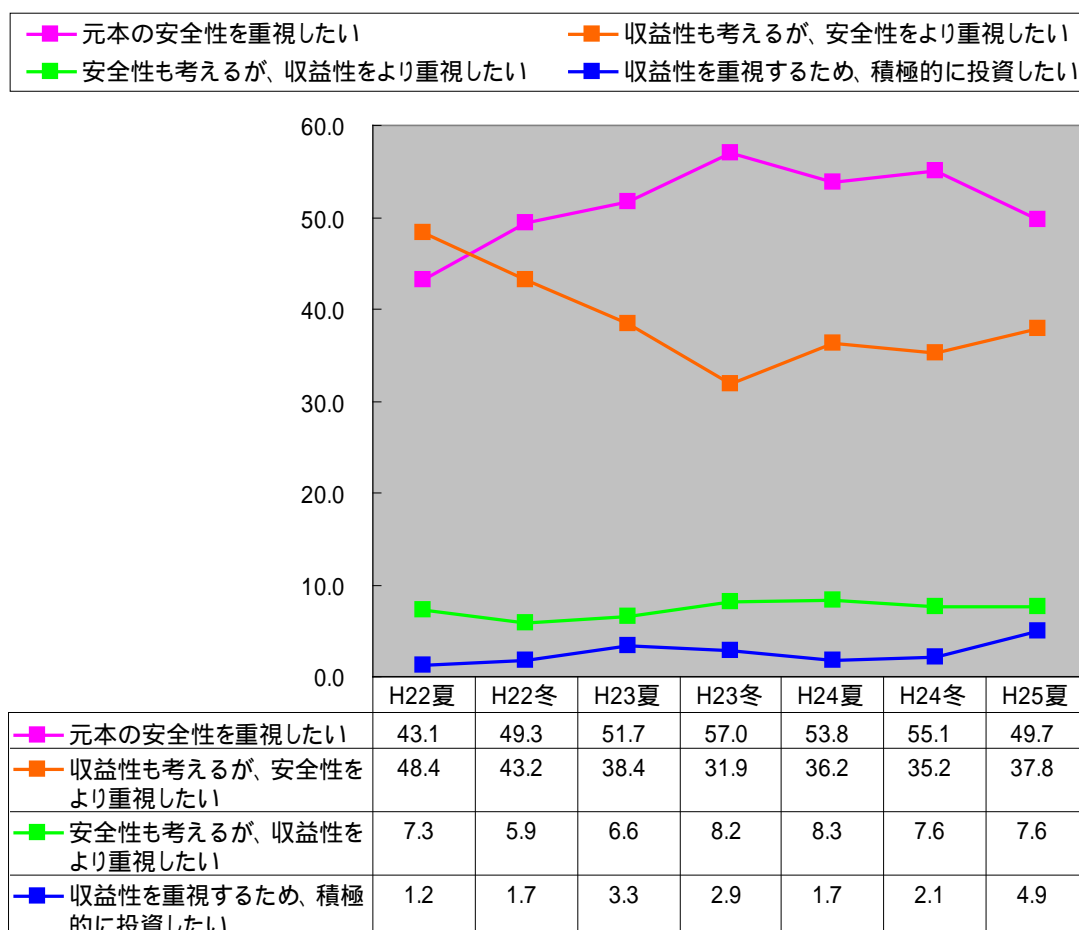
[グラフ3：将来の何のために夏のボーナスを貯蓄しますか（2つまで）]（単位：%）



夏のボーナスを貯蓄する場合の考えは、「元本の安全性を重視したい」が49.7%で1位。

「元本の安全性を重視したい」が前年の冬から5.4ポイント減少の49.7%で6期連続1位。「収益性も考えるが安全性をより重視したい」が前年の冬から2.6ポイント増加して37.8%。「収益性を重視するため、積極的に投資したい」が前年の冬から2.8ポイント増加して4.9%円安の進行や株価の上昇を受けて、収益性にも目が向くようになった。

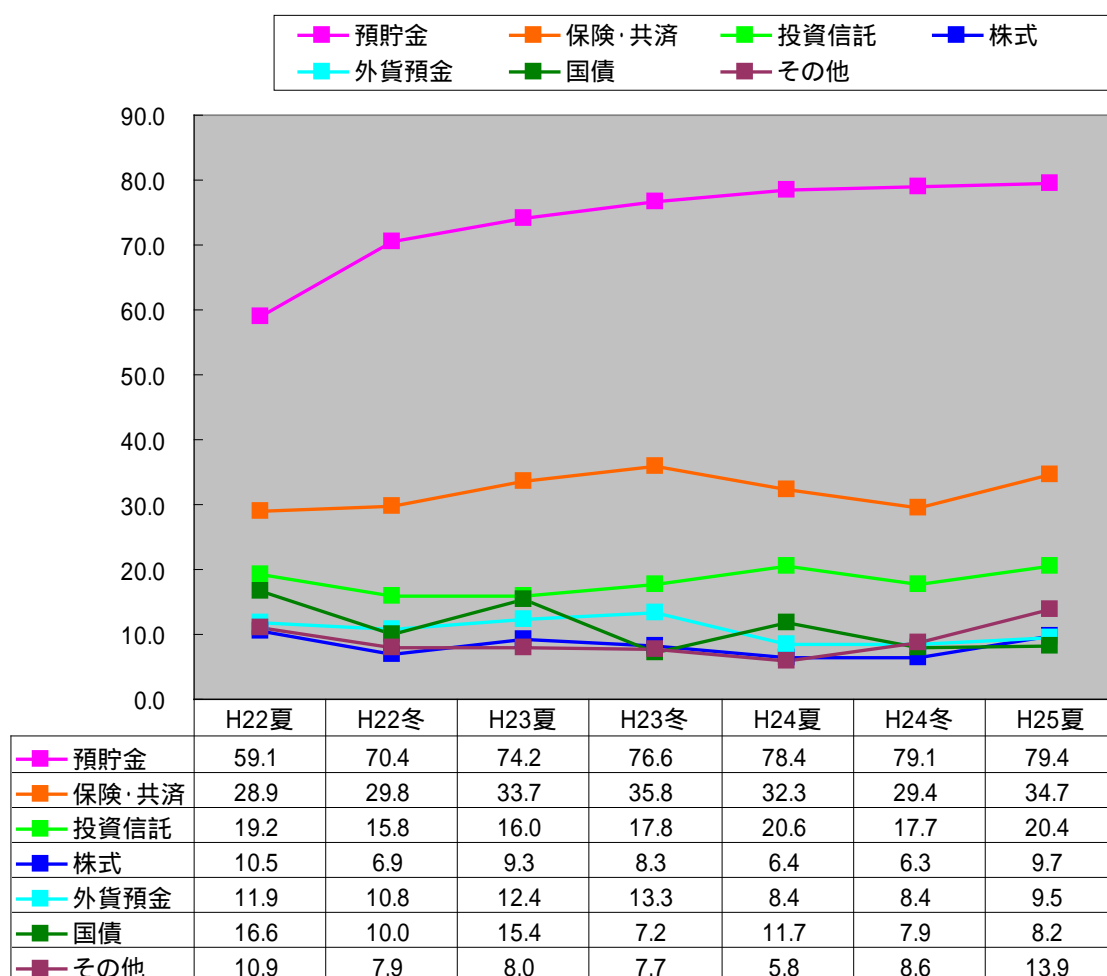
[グラフ4：夏のボーナスを貯蓄する場合、あなたの考えに近いのは]（単位：%）



関心がある金融商品、1位は「預貯金」で前年の冬より 0.3 ポイント増加し 79.4%。

現在関心がある金融商品は「預貯金」が 79.4%で 1 位。2 位は「保険・共済」で 34.7%。「預貯金」が過去最高を更新する中、株価の上昇や円安の進行を受けて、リスク性資産に対する関心が高まってきている。

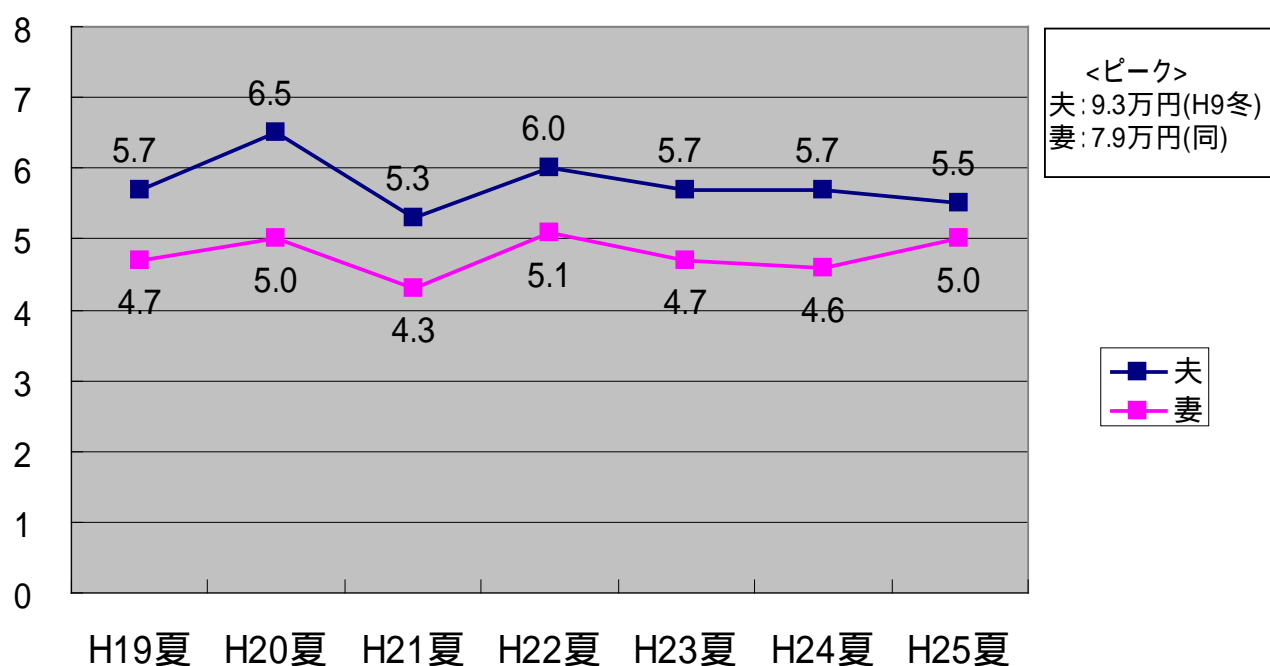
[グラフ5：どのような金融商品に関心がありますか(いくつでも)] (単位：%)



夏のボーナス、自由に使える金額は、前年夏に比べて夫は 2 千円ダウン。妻は 4 千円アップ。

夏のボーナス、夫が自由に使える金額は平均 5.5 万円（前年夏比 0.2 万円）。妻が自由に使える金額は平均 5.0 万円（前年夏比+0.4 万円）。夏のボーナスが“多くなる”との予想が増加したのを反映し、妻が自由に使える金額は増加したが、夫が自由に使える金額は減少した。

[グラフ 6 : 自由に使える金額はどれくらいですか] (単位 : 万円)



この調査に関するお問い合わせ先は  
 西日本シティ銀行 広報文化部 原田 TEL 092-461-1869  
 NCB リサーチ&コンサルティング 調査部 原 TEL 092-476-3051